

当たる!

広報クイズ②②

応募の方法は...

はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

○あて先 〒950-112 白

根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係
○締め切り 一月十九日(土) 必着のこと
○抽選 一月二十一日(月)に市役所に来られた人に抽選していただきます
○発表 二月一日号

今月の問題は...

- 今回は十月一日に行われた国勢調査の結果から出題してみました。分からない人は四、五ペーシジをご覧ください。
- ① 国勢調査の結果、白根市の人口はズバリ何人?
A 三万六千三百八十九人
B 三万五千八百人
C 三万六千三百四十八人
- ② 前回の調査と比べると人口、世帯数共に大きく増加しました。人口の伸び率は県下百十二市町村の中で何位でしょう?
A 一位
B 六位
C 十四位
- ③ 地区別に見て最も世帯数の伸びが高かった地区は?
A 大通地区
B 根岸地区
C 大郷地区

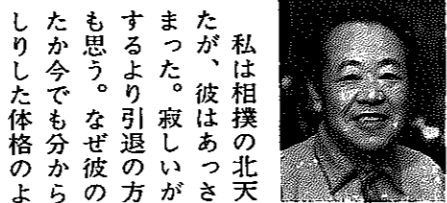
当選おめでとう!

[500円の図書券]

- ▶中野 易さん(引越・64歳)
 - ▶細河貴樹さん(茨曾根・12歳)
 - ▶西方文明さん(十五間・38歳)
 - ▶風間広大さん(古川・9歳)
 - ▶富山淳子さん(戸頭・22歳)
- [県立自然科学館招待券]
- ▶三岡惣一さん(中央通5・49歳)
 - ▶木村秀子さん(みの口)
 - ▶田村ハルさん(日の出町5・50歳)



12月17日に市役所に来られた田中隆市さん(下鷲ノ木)に抽選していただきました。先月号の正解は①A②C③Aでした。応募総数は55通で、そのうち正解は48通でした。



ファン 北天祐の引退に思う

後藤太郎さん(中央通5・無職六十九歳)

私は相撲の北天祐が好きだったが、彼はあっさり引退してしまつた。寂しいが、なまじ休場するより引退の方がよかつたと思う。なぜ彼のファンになつたか今でも分からないが、がっしりした体格のよき、控えめな

これがなかなか、そうはいかない。不調になると、また黒星が続くのか、俺が見ていると必ず負ける、などと思えてくる。そして本当に負けてガックリ。後の番組は見たくもないとスイッチを切ることもしばしば。ついに場所中テレビは見ないことになりました。そのくせ翌日の新聞では一番先にスポーツ欄を見て一喜一憂したりしている。相撲を見ていて北天祐のあの

市民談話室



武田雅子さん(戸石・主婦・四十四歳)

加賀の千代女が人の心を詠んだ。イガは内、味は上辺の人心、今日より後は栗を見習え」という歌があります。栗は上辺はイガでも中身はおいしいものです。

人の心は表面が良くても、心の中にイガを持つていては栗にも劣るということだそうです。私が十年ほど前、あるご法話で聞かせていただいた言葉です。それ以来心にイガは持つてはならぬと、時々思い出しています。とかく若い人はお寺参りは年寄りのするものと決めてはいませんか? 若い時からいろいろなお話を聞かせていただき、一つでも心の中に感銘できるものが残るとしたら...。特に若い人たちにもっとお寺に参つていただきたいと思ひます。日常生活の中にうなずけるお話がたくさん聞けます。朝に礼拝、夕べに感謝。ぜひ聴聞をお勧めします。



丸山エミさん(日の出町主婦五十九歳)

「白根の農家の女の人は本当によく働く」と、三十五年前白根に嫁いできた当時、いつも驚き、その生活態度に感心させられました。その中の一人にWおばあちゃんがおられました。果物の季節になると、毎日東葎場からリヤカーにいっぱい積んで、売りに来られるのです。何年かお付き合いが続いているうちに、お子さんの中で二人の男の子が、教師だった私の主人の担任だったことが分かったのです。それから一層親しくなつ



山崎ミイ子さん(西立巻新田一農家四十三歳)

大風合戦の立体ビデオを見て大風のできるまでのたくさんの人たちの並々ならぬ苦勞があるのを知り、とても感動しました。中でも中ノ口川を挟んで両岸から揚げた二十四疊大の大風を、空中で糸を絡ませ、相手の風網が切れるまで戦う様子はすごい



佐藤シズさん(古町農家六十三歳)

新聞配りをしてからもう九年余り。医者にかかることもなく、毎日配っています。約八十戸程ですが、新聞もいろいろあり、どの家には何新聞と頭も使いません。間違つて、ばけたのかと思ふときもありません。配る時間は約三時間。六時ごろまでに終わり、それから畑仕事です。春夏秋冬、皆さんが配達を待っていると、頑張りつづけています。主人と私で果物を作っています。

市民文芸

俳句
澗を滑りて秋の水速し 成沢 素明
一斉に來て一斉にむく去りぬ 公桑 雪夫
蒲原の一葉荒れといふ時雨 安沢 飛浪
熱燗を喜ぶ年となりけり 猪股 南魚
よき妻へよき嫁の來て冬籠り 五十嵐寛香
赤とんぼ湧くが如くに過疎の村 堀内ナナ子
朝明けに曉啼かぬ日の空しかり 木村 トリ
兄弟の仲しみじみと新酒くむ 和泉 伸子
色褪せし亡母のはんてん暖かし 細貝 漢子
松葉垣の乾く間のなき時雨かな 豊木サダ子
大がめに生けし花展の花ハツ手 知野信一郎
(以上大風会)

短歌
なり年に紅く熟れたる甘柿に 小出よし
枝も折れそに競ふ椋鳥 小出よし
曼珠沙華季節忘れず芽を吹きて 小出熊四郎
彼岸至れば花紅く咲き

川柳
雲低き列田に遊ぶ白鳥の 中村 京
遠きに幾つ近きに幾つ
ライバルの顔が連なるジャンボクジ 米野 光雄
直線が引けぬ政府の点と線 本間 雪江
緋の針は持たない赤い爪 吉川 彰
大根の皺に漬け時教えられ 荒木 イマ
コンタクトレンズ捜すに土下座する 今井 七郎
家計簿が赤字に染まる子沢山 織田 セツ
自動車のローンも持参する嫁御 後藤マサノ
黒髪が女の命だった過去 佐藤トミノ
一代で終わる彫師の背が佝し 佐藤 ヨキ
紀子さまの笑顔見たくて初参賀 高橋祐四雄
老人の顔に自分史彫つてある 竹石 基五
色盲に赤が危険と写らない 田中 成子
シャッターが上がると動く街の風 田村 恒夫
ハハの字に濁点がつく呱呱の声 時田 良子
赤富士と朱竹を掛けて福を待ち 中村 尚治
グミの赤そんな小さい思慕燃やす 西条 ムラ
赤提灯淋しく揺れる屋台酒 早川 英男
連れ添えば患病も聞きます聞かせます 山岡 フミ